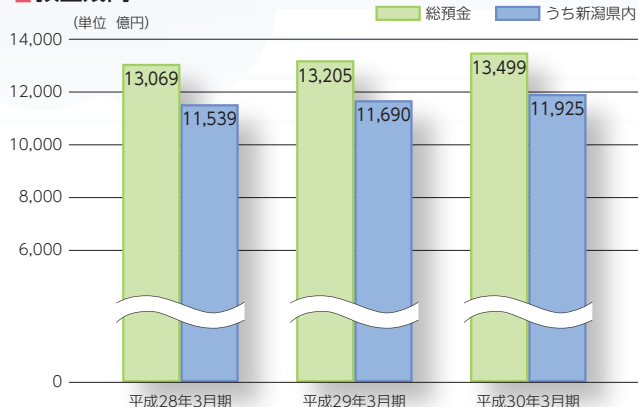


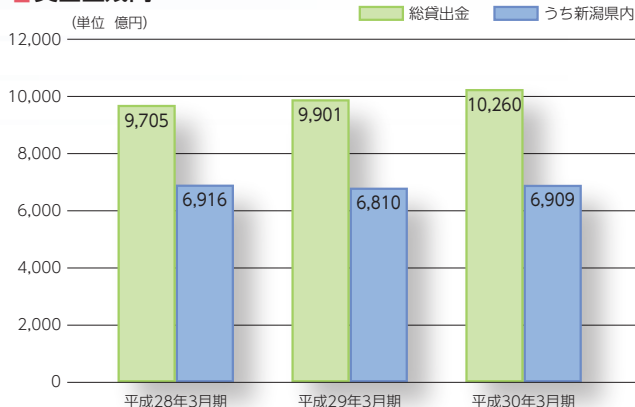
平成30年3月期決算の概要

預金残高



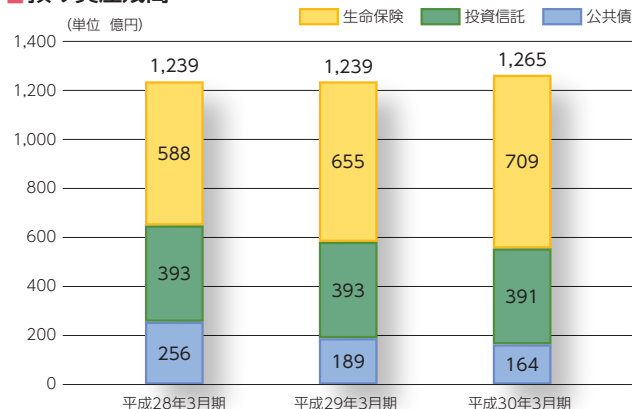
預金等残高（含む譲渡性預金）は、個人・法人預金ともに増加し、前年同期比294億円増加の1兆3,499億円となりました。新潟県内預金等残高は1兆1,925億円、県内預金比率は88%です。

貸出金残高



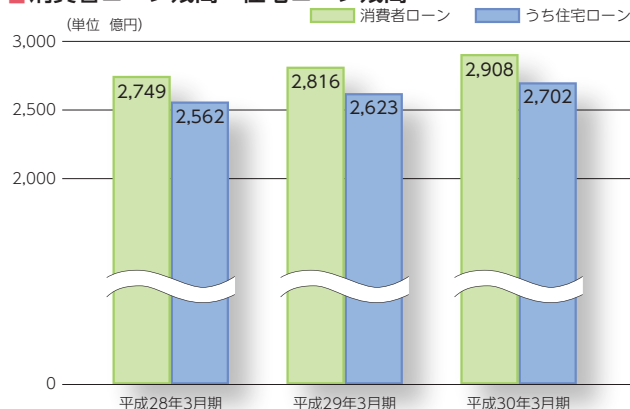
貸出金残高は、中小企業向け貸出を中心に事業者向け貸出が増加したほか、個人向け貸出が増加し、前年同期比359億円増加の1兆260億円となりました。新潟県内貸出金残高は6,909億円、県内貸出金比率は67%です。

預り資産残高



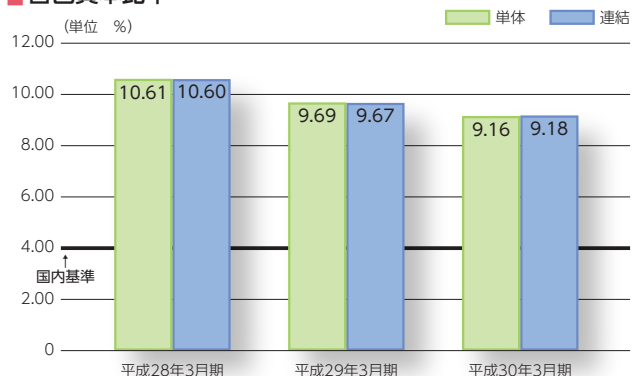
預り資産残高は、個人向け国債の償還などにより公共債が減少したほか、投資信託が減少しましたが、生命保険が増加したことにより、前年同期比26億円増加の1,265億円となりました。

消費者ローン残高・住宅ローン残高



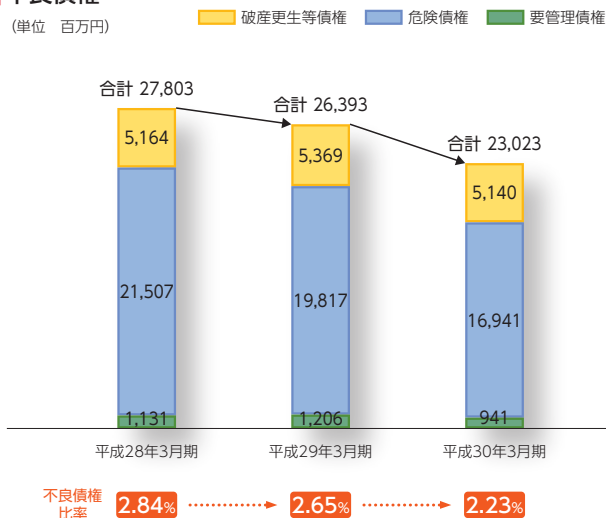
消費者ローン残高は、住宅ローンを中心に前年同期比92億円増加し、2,908億円となりました。

自己資本比率



自己資本比率は、単体が9.16%、連結が9.18%といずれも規制値の4%を大きく上回る水準であり、引き続き高い健全性を維持しております。

不良債権



金融再生法に基づく開示債権額は、前年同期比33億円減少の230億円で、総与信額に占める割合は2.23%となりました。

自己資本比率とは

貸出金や有価証券などの総資産（リスクアセット）に対する自己資本（資本金・内部留保など）の割合を示すもので、高いほど健全といえます。当行のように国内業務のみを営む銀行は4%以上を維持することが義務付けられています。

■ 損益

(単位 百万円)

	平成30年3月期	平成29年3月期	増減
業務粗利益	16,780	17,045	▲ 265
(資金利益)	(15,353)	(15,754)	(▲ 401)
(役務取引等利益)	(615)	(567)	(48)
(国債等債券関係損益)	(807)	(675)	(132)
経費	12,742	12,556	186
一般貸倒引当金繰入額	—	—	—
業務純益	4,038	4,488	▲ 450
(コア業務純益)	(3,231)	(3,813)	(▲ 582)
不良債権処理額	417	483	▲ 66
株式等関係損益	299	142	157
経常利益	4,740	4,596	144
当期純利益	3,519	3,142	377

$$\text{業務純益} = \text{業務粗利益} - \text{経費} - \text{一般貸倒引当金繰入額}$$

$$\text{コア業務純益} = \text{業務純益} + \text{一般貸倒引当金繰入額} - \text{国債等債券関係損益}$$

<前年同期との比較>

■ コア業務純益

役務取引等利益は増加しましたが、資金利益の減少や経費の増加などにより5億82百万円の減益となりました。

■ 経常利益

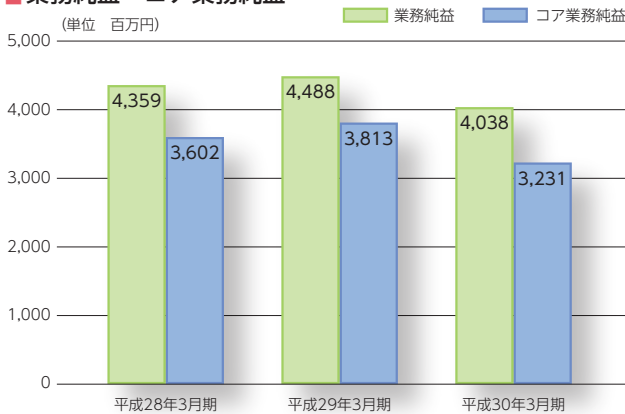
不良債権処理額の減少や有価証券関係損益の増加などにより、1億44百万円の増益となりました。

■ 当期純利益

経常利益の増加を受け、3億77百万円の増益となりました。

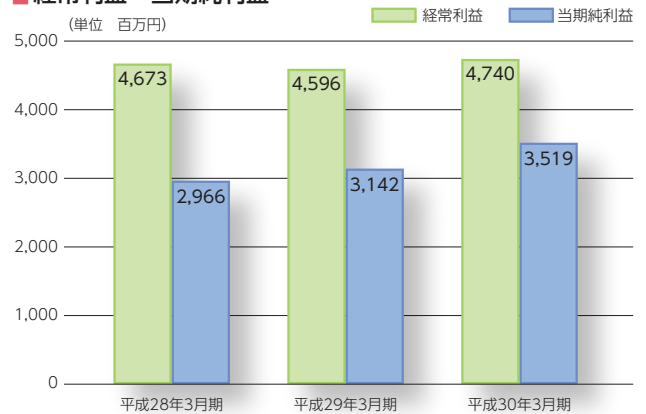
■ 業務純益・コア業務純益

(単位 百万円)



■ 経常利益・当期純利益

(単位 百万円)



■ 有価証券の評価損益

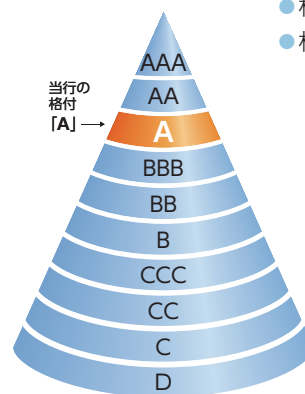
(単位 百万円)

	平成30年3月期	平成29年3月期	増減
満期保有目的	▲ 30	▲ 12	▲ 18
その他有価証券	17,139	19,761	▲ 2,622
株式	6,117	6,152	▲ 35
債券	4,937	6,569	▲ 1,632
その他	6,084	7,039	▲ 955
合計	17,109	19,749	▲ 2,640

有価証券全体の評価損益は171億9百万円となり、前年同期比26億40百万円減少しました。

■ 格付

株式会社日本格付研究所(JCR)より格付を取得しています。



- 格付：「A」（シングルAフラット）
- 格付の種類：長期発行体格付

※長期発行体格付とは、債務者（発行体）の債務全体を捉えて、その債務履行能力を評価したものをいいます。

※AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして「+」もしくは「-」の符号による区分があります。

- 安全性が高く評価されております。